



京都大学防災研究所附属火山活動研究センター 提供

6月4日15時20分頃

6月4日に桜島南岳（1060m）の昭和火口付近から新たな噴煙が上がった。鹿児島地方気象台によると、京都大学防災研究所附属火山活動研究センターから13時に通報があり、16時に気象台でも噴火を確認した。昭和火口は昭和21年に噴火により出来た火口。その付近から新たな火口が出現。気象庁の火山観測情報第3号によると、7日17時30分頃、昭和火口付近で噴煙の高さが1000mに達する噴火が発生した。6月9日には南岳山頂火口から10時53分に高さ700mの噴煙を観測。〔火山観測情報第4号〕15日7時1分には南岳火口直下で振幅の大きなA型地震が発生。〔火山観測情報第8号〕気象庁では、火山活動度レベルを「活発な活動」のレベル3に引き上げた。桜島の火山活動解説資料（平成18年5月）でも、南岳山頂から5月25日に最高高度800mの噴煙を確認している。南岳山頂の活動は継続していた。また、火山性のB型地震が多い状態が続いていた。しかも、GPS観測では山体の膨張傾向が続いていた。〔福岡管区気象台〕

気象庁の桜島の解説によると、有史後の山頂噴火は南岳に限られるが、他は山腹や付近の海底からの噴火。「天平」「文明」「安永」「大正」「昭和」の大噴火はすべて山腹噴火であり、多量の溶岩を流出した。1914年（大正3年）の大噴火で山腹から流出した溶岩により大隈半島と陸続きになった。

写真提供：京都大学防災研究所附属火山活動研究センター

参考資料：気象庁「火山情報桜島 火山観測情報第3号・4号・8号」、「桜島の火山活動解説資料（平成18年5月）」、「桜島の解説」

謝辞：上記の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。